

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

<http://takasaki.gunma-unesco.com>

UST

発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027)321-1297

高崎ユネスコ協会

「創立50周年記念事業」に向けて

「基軸はユネスコ力の発露!」

高崎ユネスコ協会会長 串田 昭光

(1) はじめに

現在会員は、十一月三十日(土)

ホワイトイイン高崎における「創立五十周年記念事業」である記念式典(オープニングセレモニー・功労者顕彰・記念講演)や

祝賀会、さらに記念誌発刊など

の準備を進めています。会員は、

総務・式典・祝賀・記念誌の四

部会に分かれ、「ユネスコ力の

発露」を体現してチーム一丸となつて取り組んでいます。

(2) 記念式典と祝賀会の概要

記念式典では、オープニングとして高崎ユネスコ協会の五十年歴史をたどるスライドショ

「ユネスコ力の発露」丸と

なつて取り組んでいます。

(3) 「ユネスコ力の発露」について

「ユネスコ力の発露」とは、

五十年かけ先人が精魂を込めて築いてきた活動基軸、「世界の

平和や人間の幸せを願う「熱き実践」」を不易と流行の観点で継承していく営みと考えます。

そこには、ユネスコの理念である、「身近な平和や、自分はも

とより他人の幸せを願う行為の心根(思いやり・心遣い)」が凝縮されているからです。

こうした目標やその実現に向けた取り組みを、創立五十年の節目に振り返ることは、今後の通常総会での串田会長

(4) 先人の言葉から学ぶもの

初代会長松山武郎氏の創立十周年記念式典での言葉、「この十年は、苦難の道だったかもしれません。しかし、わたし達は

遺産活動や未来遺産(地域遺産)活動の推進へとつながる道でもあります。

「時代の激変に対応すべき生じた新たな活動」を創意工夫し地道に取り組むことなくしては実現不可能です。

そのことが、新たな活動の歴史をつくり発展させることに「つながる」と確信します

半世紀を見据えた組織や活動のあることだと思います。目標を実現すべき活動の合言葉、「つなげよう・深めよう・広めよう・ユネスコの心」—地域に根ざした活動の継続・発展—は、「歴史と伝統ある日常活動」や

「つながる」と確信します

私たちには、先人の志を、日本ユネスコ連盟の掲げる「ESD(持続可能な開発のための教育)を通して二〇三〇年度までにSDGs(持続可能な開発目標)の達成」や、その実現を目指す手立てである「ユネスコスクール(ユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校)」の理解や加盟へとつなげていこうと取り組みを強めています。さらに世界

の先見や活動の根幹への洞察の鋭さが今も通用するからです。平和を希求する「現在の精神は、過去の課題を乗り越えることに

(5) 最後に

令和元年の記念すべき節目に、関係各位の皆様には多大なるご支援・ご厚意を賜り、創立五十周年記念事業を順調に進められることに感謝申し上げます。ま

た、記念事業への賛助はもとより、当日の記念行事へのご列席などに御礼を申し上げます。会員の皆様には、ボランティアスピリットを發揮し献身的に支えて下さっていることに感謝申しあげます。



キャンプ場広場で各班の国旗を持って

八月七日、高崎青年センターで結団式の後、倉渕地域遺産巡り。元会長須田先生の説明で中石津の道祖神を見学。解説を聞いたり道祖神に触ったりと倉渕の歴史風土を感じていました。つぎに今年度初めて企画した東善寺へ。小栗上野介忠順の墓に参拝して、村上住職の解説。聞き入っていました。「すごい人がいたんだ」真剣に到着し、高倉山登山の予定で

から、ユネスコ会員・高経大JLと共に自己紹介をして早速班活動に取り組みました。班長を決めて、班名・各班の国名（国旗作成者・国の説明者）・口号と一緒に川に。すぐにサンショウウオを見つけた子、滝壺に飛び込む子など大自然に浸りました。今年は河原に降りる崖に口

にわらび平キャンプ場で実施されました。昨年と一昨年の二年間台風により中止、待ちに待ったキャンプを実施することができました。今年度は「自然体験に仲良く挑戦＆培おう『ユネスコ力』」を目標に『よく考え、自分から進んで行動する』をキヤッチフレーズに取り組みました。七月十四日(日)の「参加者と保護者の集い」において、参加児童・生徒三十三名が六班に分



道祖神を見学



東善寺で解説を聞く

八月七日、高崎青年センターで結団式の後、倉渕地域遺産巡り。元会長須田先生の説明で中石津の道祖神を見学。解説を聞いたり道祖神に触ったりと倉渕の歴史風土を感じていました。つぎに今年度初めて企画した東善寺へ。小栗上野介忠順の墓に参拝して、村上住職の解説。聞き入っていました。「すごい人がいたんだ」真剣に

いました。

八月七日、高崎青年センターで結団式の後、倉渕地域遺産巡り。元会長須田先生の説明で中石津の道祖神を見学。解説を聞いたり道祖神に触ったりと倉渕の歴史風土を感じていました。つぎに今年度初めて企画した東善寺へ。小栗上野介忠順の墓に参拝して、村上住職の解説。聞き入っていました。「すごい人がいたんだ」真剣に



鳥川源流探索



演奏に合わせて踊る

時間が取れたので、各班の創意工夫したクイズやゲームで大いに盛り上りました。天候悪化で行事が中止になった時の代案がうまくいきました。八月九日青年センターで解団式。「よく

ですが、雨が強くなり中止。残念！」そこで、キャンプファイヤーの最後に予定していた各班の出し物発表会の時間に、十分に

私が参加して感じたこのキャンプの特徴は、親元を離れて初めて会った小学生同士が、大勢でキャンプ生活をするところです。互いのことを知らない者同士が、集団での炊事、班活動、自由時間、就寝時間を通じて次

第47回高崎ユネスコ青少年キャンプ

キャンプ部長 渡部 孝男

ユネスコキャンプを
終えて
高崎経済大学 二年 岡田 瑛

第47回高崎ユネスコ青少年キャンプ

私たち高崎経済大学ボランティアサークルACTは、ユネスコキャンプにジュニアリーダーという形で七人が参加させていただきました。昨年、一昨年と台風により中止になつたため、私たち全員がユネスコキャンプに初参加となり、大学生もキャンプの経験が少なかつたため少しあきました。昨年、一昨年と台風により中止になつたため、大学生の補佐役でありながら、小

学生と一緒に悪戦苦闘しながら

二泊三日のキャンプ生活を過ごしました。

私は参加して感じたこのキャンプの特徴は、親元を離れて初めて会つた小学生同士が、大勢でキャンプ生活をするところです。互いのことを知らない者同士が、集団での炊事、班活動、自由時間、就寝時間を通じて次



火おこし体験

第に相互理解を深めていくその姿は、まさにユネスコの理念を体现しているようで、かけがえのない貴重な体験ができるキャンプだと思いました。私がこのキャンプで思い出に残っていることは炊事です。キャンプ三日間で合計六回の炊事をしました。私は大学生になり一人暮らしをしており、誰かと朝食を共にする機会が少ないので、にぎやかな朝食がとても懐かしく、またいつもは三〇分ほどで済む朝食に、片づけを含め二時間近くかかる生活がとても新鮮に感じ楽しかったです。炊飯器やレンジのない中で生活する機会はこの現代ではほとんどなく、またさらに新たな機械やサービスが開発、販売され、ますます便利になつていく将来の生活が予想されますが、近ごろは自然災害が多く、誰もが非難生活や電気のない生活をいつまでもおかしくありません。

高崎市立堤ヶ岡小五年 原 泰輔
ユネスコキャンプに参加してあります。

一つ目は、みんなで協力することの大切さです。協力しないと目的は達成できません。特に飯ごう炊飯は、たくさんの人との協力が必要でした。火をおこしたり、まきでご飯をいたたりするのは大変でした。いつも食べているご飯も自分で作つてみると大変だけれどとてもおいしかったです。

二つ目は、いつも使つているガスや電気がないと不便だということです。まきだとすぐに火を弱めたり、強めたりできないうのです。むだに使わないようになつたとと思いました。

また、ご飯をいつも気にしないで食べているけれども食べるようになるには、大変だと感じました。いつも用意してくれた人は感謝しなければと思いました。

ぼくは、今回のキャンプは楽

自然と向き合いあえて不便な中で生活するキャンプは一見無意味に見えますが、これから生きてく上で欠かせない自主性と測事態で役立つ生活力を確かに私たちに与えてくれたと思いました。

逞しさ、そして“いつか”的な運びで役立つ生活力を確かに私たちに与えてくれたと思いました。

さて、そこで、いろいろ学べたこと、友達ができたことなどがよかったです。

私は、豊かな自然の中でとて

しかったこと、いろいろ学べたこと、友達ができたことなどがよかったです。

私は、豊かな自然の中でとて

も貴重な体験をし、成長しました。そして、このユネスコキャンプは乐しかった良い思い出となりました。



楽しかった花火

私は今年、ユネスコキャンプに参加させていただきました。去年と一昨年は、参加は決まっていなければ台風で中止になつたので、二年越しのユネスコキャンプとなり、とても楽しみにしていました。

私がこのキャンプで一番樂しかった事は花火です。花火はもとから楽しいものですが、それを友情を深めた班の仲間とすることでより楽しく感じました。また、さらに友情が深まつた気

がしました。

最初は「違う学校の子」でしたが、三日間が終わると「仲良くなつた友達」となり、大切な仲間となりました。またスタッ

ユネスコキャンプでの体験

高崎市立高南中一年 安住 彩那

第4回高崎ユネスコ協会 国際理解バスを終えて

国際理解バス部長 中島 千恵美



メキシコ大使館にて

異常なほど暑かつた夏休みも立秋を過ぎると雨の降る日もあります。天候不順となつた。理解バス当日も天候が心配されたが、防犯青少年課山口補佐の激励や串田会長の挨拶の後、元気に出発した。

バスは玉村スマートインターから一路東京へ。一緒に行動する仲間の自己紹介を聞き終わると、バスの中はゲームで盛り上がり、歓声が上がるほど。途中



三芳PAで休憩。美女木を過ぎると車・車・車の渋滞!引率者から「高崎」はなぜ「高崎」という漢字になったのか。鷹でなく高の使われた理由etc。また、他の引率者からは市内の児童生徒のことや宇宙環境に関する事がクイズ形式で出され頭をフル回転させながら答えを導くバースの中。当たると景品が貰え、一喜一憂。

ふと時計を見ると九時五十五分。JICA地球ひろばに遅れることを連絡。玄関では前青年海外協力隊員だった案内人の宍倉様が出迎えてくださり、二十分遅れではじまりSDGsの中から水環境についてのビデオ学習と水バケツ十升を持つ体験をした。展示室ではSDGsのコーナーが目を引き、子供たちは思い思いにカメラを向け撮影したり筆記したりしていた。協力隊の宍倉さんは富士山の五合目と同じ高さのエチオピアに派遣されていたとのこと。説明が分かり易くとても計算されていて、実技を交えた参加型の五十分。

現地の言葉で「コイ」は「待つ



メキシコについて学ぶ

て」の意味、「イッシ」は「OK」のこと。ジエスチャーチェンジ。サフランライスは盛りつけられた三分の一が残り、唐揚げはあつという間に姿を消した。子供達は、バイキングに慣れており、自分のお皿に食べられるだけ取り、何度もお替わりする姿が見られ、無駄のないきれいな食べ方をしてくれた。

午後は永田町にあるメキシコ大使館へ。通訳官と政治部から二人が出迎えてくださり、中一女子が西語で挨拶。グロリア書記官からは歓迎の言葉が述べられ、メキシコの事をどれほど理解しているか、映像を使って説明したり質問したり。子供達が意欲的に手を挙げ参加したので大使館の三人から子供達への感心の声が聞かれた。また、メキシコはたくさんの遺跡もあり観光に力を入れている様子も分かった。後半は自國文化を子供達

が積極的に発表してくれた。ステージは空手と剣道の型を披露するにはやや狭かつたが、気合いと共に堂々とした態度で観客を楽しませてくれた。条幅習字、半紙習字、折り紙の花束や花火などもプレゼントし、書記官や通訳官が剣道に興味を示し、書記官が剣道の型を披露する姿もあり、微笑ましかった。

本事業は小五から中三迄の児童生徒に参加を呼びかけ、毎年

多数の応募者があり抽選をして参加者を決定している。それだけに参加者の意識が高く継続したい事業。

結びに、日本メキシコ友好協会や防犯・青少年課のご協力に感謝申し上げたい。

私にできるSDGs

高崎市立中川小学校 六年 武井なぎさ

「15—3」の計算を「//」で「//」というように斜線をひいてするそです。桁の数字が大きくなつたら書くのが大変です。私は、「同じ地球でも国が変わると色々な勉強の仕方があっておもしろいなあ」と思いました。

ユネスコ国際理解バスに参加して

群馬県立中央中等教育学校 一年 春山 紗希

私は高崎ユネスコ協会が主催する「国際理解バス」に参加し、JICA地球ひろばとメキシコ大使館に行きました。特に心に残ったのはJICA地球ひろばで色々なことを初めて知つたことでした。●外国の学校の様子

●世界の民族衣装・楽器●水の問題について●持続可能なSDGs●青年海外協力隊のエチオピアでの体験談、などについて展示を見たりお話を聞いたりしました。驚いたのは青年海外協力隊で



剣道の型を披露

私は高崎ユネスコ協会が主催する「国際理解バス」に参加し、JICA地球ひろばとメキシコ大使館に行きました。特に心に残ったのはJICA地球ひろばで色々なことを初めて知つたことでした。●外国の学校の様子

●世界の民族衣装・楽器●水の問題について●持続可能なSDGs●青年海外協力隊のエチオピアでの体験談、などについて展示を見たりお話を聞いたりしました。驚いたのは青年海外協力隊で



JICAで水問題について学ぶ

私は八月二十二日に、ユネスコ国際理解バスに参加しました。午前中はJICA地球ひろばを見学し、その後にメキシコ大使館を訪問させていただきました。その場では特に水の面を主題とし、青年海外協力隊の方がお話を下さいました。次に資料などの見学をする場所に行つたのですが、そこではたくさんの驚きが待っていました。毒を持っていました。

とは、「4・質の高い教育をみんなに」「10・人や国の不平等をなくす」「16・平和と公正をすべての人に」などとつながると思います。また、毎日のご飯などで食べ残しを無くすことでも「2・飢餓をゼロに」につながっていくと思います。だから、いじめられている人がいたら支えて助けること、食べ物を大切にすることなど、ふだんの生活で気づく「私にできるSDGs」を目指していきたいと思います。

国際理解バスに参加して、私は過ごすふだんの何気ない日常生活で、私が大きくなつたら書くのが大変です。私は、「同じ地球でも国が変わると色々な勉強の仕方があっておもしろいなあ」と思いました。

私は高崎ユネスコ協会が主催する「国際理解バス」に参加し、JICA地球ひろばとメキシコ大使館に行きました。特に心に残ったのはJICA地球ひろばで色々なことを初めて知つたことでした。●外国の学校の様子

●世界の民族衣装・楽器●水の問題について●持続可能なSDGs●青年海外協力隊のエチオピアでの体験談、などについて展示を見たりお話を聞いたりしました。驚いたのは青年海外協力隊で

午後のメキシコ大使館では、メキシコの場所やイベント、言葉や遺跡などをメキシコの方に教えていただきました。メキシコにチエンイツツアのチャックモールという人物像があり、そのお皿の部分には、昔生贊の心臓を置いて神に捧げていたそうです。また、ピラミッドでは、放射線状のものができると言われていますが、それは意図的につくられたものの、今はまだ理由が解明されていないそうです。たくさんのお不思議があるメキシコ、いつか実際に行ってみたいと強く感じました。メキシコ大使館は、勿論普通では入れない場所であり、そこでお話を聞かせていただくなど、もう二度と無いことなのだろうなど、つくづく思いました。

一日を通して主に三つのことを学びました。一つ目は、世界中を探せば貧困など辛い思いをしている子がいくらでもいる、ということです。頭だけで分かっていても、それが実際どれくらい辛くてどんな状況なのかななんて、知らうとしなければ分か

りません。そのため、今回のことを通して同じ年くらいの子の辛い思いがやっと分かった気がしました。二つ目は、メキシコ大使館での経験です。すべて本場の言葉を聞かせて頂いたり、その場で質問に答えてもらったりと、とても貴重な経験をさせて頂きました。三つめは、高崎市の色々なところから来ている子と友達になれたことです。もう会えない友達かもしれませんのが、この国際理解バスで共に学んだ仲間たちと貴重な経験がでっき、夏休みのとても大切な思い出となりました。今回のSDGsなども学校で生かしていくからいいと思います。

第75回日本ユネスコ運動
全国大会in東京に参加して

事務局次長
松本 千恵子



JICA地球ひろばにて



開会式

串田会長、須田顧問と私の三名が七日のみ参加しました。公立小学校での初めての大会と聞き、関心はこちらにも。平成二十六年に改築。都内一、二を争う設備の校舎。会場の体育馆もエアコンが良く効き、パイプ椅子が並べられ、その上に当日のパンフレットと同時通訳機が全員に用意されていました。

午後十二時半より開会式、十三時十分から二十五分までオープニングに大正大学学生制作寺子屋の映像。十三時三十分から「寺子屋は途上国の人びとに何をもたらすことができたか」学習者の声を聴く」と題したディスカッション。学習した人々の成功体験を聞くことができました。アフガニスタンのムハマド・ハニーフは二十七歳男性。イスラリフ郡中学校で校長をしています。ネパールのタラマテイ・ハリジャンは十二歳で結婚四十歳過ぎて寺子屋で識字学習



其講演白川氏，ハヌマン氏

をし、五十六歳の今は市会議員です。カンボジアのアン・サンナンは小学校を中退し再度寺子屋で勉強。今や将来有望な高機能生。私たちのハガキ回収の成績が目に見える良い企画でした。そして、十四時四十五分から「SDGs 実現に向けての講演・NFE の役割」と題し、だれも人ウルリケ・ハネマン氏（識字 NFE 専門家）による基調講演。ここでは、NFE（＝Nonformal Education（学校外の組織的な教育活動））とそこには含まれる Lifelong Education（生涯教育）の大切さを学びました。Literacy は識字だけでなく PC、スマホや AI など最新機器を知ることにも当てはまります。大切なのは生涯学び続けることです。

休憩を挟んで、十六時から「世界寺子屋運動と SDGs」のパネルディスカッション。七時三十分から十八時十五分まで「これから世界寺子屋運動の役割と展望」で総括セッション。

その後池袋ホテルメトロポリタンへ懇親会出席のため慌しく会場を移動しました。

翌日、サブテーマは「学びを



タラマティ・ハリジャンさん

通して共生社会を創る」日本
国内の外国人子弟教育について
のパネルディスカッションをし
その後、山田洋次監督の基調
講演「二〇一九年寅さんの学
校論」。募集案内で未定だった
ため、自分に最も関心のあるテ
ーマと基調講演を聞き逃したこ
とは誠に残念でした。

盛り沢山だが同じ内容の繰り
返しが多く、パイプ椅子に座り
続けた座学は「長さ」に追い討
ちをかけました。グレープ討論
で体や頭をほぐす時間も欲しか
ったと思います。また、初体験
の同時通訳機は非常に有効でし
たが、基調講演では話者の直の
声に重なるので、段落ごとの通
訳か、できれば字幕が良かつた
と思いました。

四十五カ国・地域で五百以上
の寺子屋を作り、百三十万人以
上に学びの場を提供して来た
「世界寺子屋運動」の三十年を
一挙に圧縮したような一日でし
た。としまユネスコ協会のご努
力に感謝します。

高
研修兼事務局員研修会が太田市立史跡金山城址ガイダンス施設、太田市金山地域交流センターで開催されました。

今年度三十周年を迎えた世界寺子屋運動に焦点をあてた研修会で、県内ユ協の世界寺子屋運動等への活動状況（アンケート結果）報告や世界寺子屋運動の活動事例発表が行われました。

事例発表は前橋ユネスコ協会と高崎ユネスコ協会が行い、前橋ユネスコ協会からはベトナムハノイでのスタディーツアー参加の状況報告がありました。

高崎ユネスコ協会では下記に示したレジュメに従つてパワーポイントを使用し、普段活動していることを発表させて頂きました。集まり、振込手数料を除いた、二五、二九〇円を、東日本大震災子ども支援募金ユネスコ協会就学支援奨学金として送金しました。

これからも高崎ユネスコ協会の寄付活動にご協力をお願ひいたします。

世界寺子屋運動についての啓発（常時）
コ・アクション募金や書きそんじハガキの回収（常時）
書きそんじハガキ回収キャンペーン（1月）

世界寺子屋運動についての啓発（常時）
各イベントや講演会毎にポスターや実績資料を掲示し、活動内容について、市民に理解・協力を仰いでいる。
広報「高崎ユネスコ」掲載。
ラジオ高崎出演・広報。

コ・アクション募金や書きそんじハガキの回収（常時）
各イベントや講演会毎にポスターや実績資料を掲示すると同時に募金箱や書きそんじハガキ回収箱を設置。
書きそんじハガキ…キャンペーンのハガキと一緒に日ユ協へ。
コ・アクション募金…東日本大震災子ども支援募金「ユネスコ協会就学支援奨学金」として日ユ協への送付やその他災害への見舞金としても役立っている。

書きそんじハガキ回収キャンペーン（1月）
事務局より幼稚園、各小・中学校、特別支援学校等に協力依頼文書と共にポスター・回収箱を配布（1月）、回収（2月）
事務局に集められたハガキ・切手等は、後日役員・理事で枚数を数え郵便局で切手に交換。日ユ協へ送付（3月）

世界寺子屋運動推進委員会委員長 森野玲子
(支援:松本・徳井)

世界寺子屋運動推進委員会
委員長 森野玲子

「県ユ連運営研修兼事務局員研修会」
参加報告

世界寺子屋運動

高崎ユネスコ協会活動状況報告

世界寺子屋運動推進委員会委員長 森野玲子

(支援:松本・徳井)

1. 主な活動

- (1) 世界寺子屋運動についての啓発（常時）
- (2) コ・アクション募金や書きそんじハガキの回収（常時）
- (3) 書きそんじハガキ回収キャンペーン（1月）

2. 活動方法

- (1) 世界寺子屋運動についての啓発（常時）
 - ・各イベントや講演会毎にポスターや実績資料を掲示し、活動内容について、市民に理解・協力を仰いでいる。
 - ・広報「高崎ユネスコ」掲載。
 - ・ラジオ高崎出演・広報。
- (2) コ・アクション募金や書きそんじハガキの回収（常時）
 - ・各イベントや講演会毎にポスターや実績資料を掲示すると同時に募金箱や書きそんじハガキ回収箱を設置。
 - ・書きそんじハガキ…キャンペーンのハガキと一緒に日ユ協へ。
 - ・コ・アクション募金…東日本大震災子ども支援募金「ユネスコ協会就学支援奨学金」として日ユ協への送付やその他災害への見舞金としても役立っている。
- (3) 書きそんじハガキ回収キャンペーン（1月）
 - ・事務局より幼稚園、各小・中学校、特別支援学校等に協力依頼文書と共にポスター・回収箱を配布（1月）、回収（2月）
 - ・事務局に集められたハガキ・切手等は、後日役員・理事で枚数を数え郵便局で切手に交換。日ユ協へ送付（3月）

3. 協力者へのお礼・報告

- (1) 書きそんじハガキ
 - ・回収キャンペーン協力への礼状発送（4月）
 - ・各校には日ユ協からの感謝状送付（4月）
- (2) 通常総会において活動状況と実績報告（5月）
- (3) 児童画・作文合同表彰式にてお礼と結果報告（2月）
- (4) 広報「高崎ユネスコ」に結果報告掲載（3月）
- (5) 高崎ユネスコ協会HP掲載（3月）

4. 今後の課題

- (1) 世界寺子屋運動についての啓発方法の検討。
- (2) 書きそんじハガキ回収キャンペーンにおける幼・小中特別支援学校の回収率は、市内全校の53.3%。より多くの学校に協力が得られるようさらに努力の必要がある。
- (3) 感謝状の配布方法。

世界では貧困や紛争、学校が近くにないなど様々な理由で学校にいけない子供たちが一億二千万人、さらには教育を受ける機会がないまま大人になった人たちが七億五千万人いるといわれています。この現状から世界寺子屋運動が日本発の教育活動として発足し今年で三十年。この節目の年、発表にあたって改めて世界寺子屋運動について考観立つて、またそのことがいかに多くの方々の協力によって成り立つていて役立つているか、またその地域社会における生涯教育を提供する場としていかに



児童画展での広報活動

「持続可能な社会」を実現するためには、世界中の人々が互いに尊重し合い、「分かち合ひ」の精神を自覚し実践していく必要があります。しかし、はたしてこんな高尚なことが我ら人間にできるのだろうか。自分さえ良ければそれで良い」という思いは、「この美しい地球を子の代、孫の代まで残してあげたい」という思いよりも数百倍も強いのだろうか。そんな思いの中で、武井なぎささんの「私にできるSDGs」にちょっぴり救われた。（三浦）

台風十九号など、今年も地球温暖化に伴うと見られる自然災害が世界各地で大きな爪痕を残している。あと十年この状態が続くと、シベリアの永久凍土が溶け出して地中の温暖化作用の強いメタンガスが空気中に大量に放出され、地球の温暖化は坂道を転げるようにもう後戻りができない状態になると警告を発する学者もいる。

ユネスコが掲げる「持続可能な社会」実現への取り組みの必要性は、東西、南北の対立を問わず世界各国で本当に待ったなしのはずである。しかし哀しいかな、今世界的潮流は「連帯」から「分断」へとシフトエンジンつつある。

あとがき